

岩手県立千厩病院



岩手県立千厩病院は一関市の東部、旧東磐井群のちょうど中心に位置する千厩町にあります。千厩町は一関市の中心街と気仙沼市のちょうど中間地点で、以前は交通、交易の要衝として繁栄し、現在は周囲の町村とともに一関市に合併し、その東部地域となります。当院の位置する千厩町がちょうどその中心です。

当院は、旧東磐井地域 41000 人の健康を守る地域の中心的な総合病院としての役割を担っており、岩手県立病院の次期経営計画では、やや広い地域の救急や透析などを受け持つ、「準広域地域病院」と位置づけられています。



常勤医師は 10 人以下ですが、奨学金義務履行中の若い医師が多く、活気ある診療活動をしてきています。外来は岩手医大附属病院をはじめとして、各方面から多くの臨時応援医師に来て頂いて診療いただいております。

令和 5 年度実績

- 1 日平均入院患者 76 人
- 1 日平均外来患者 220 人
- 年間救急患者 約 4500 人
- 救急者受け入れ台数 約 1100 台

県内外の多くの臨床研修病院から地域医療研修を受け入れており、毎年 10 数人の研修医が 1～2 ヶ月間、当院で高齢者医療や地域包括ケアを学んでいます。異なる研修病院の研修医と一緒に働く機会も多く、お互いに刺激を受けることも有意義と感じてくれているようです。また、当院に若い医師が多いことも、近い年代の医師から指導を受けることが出来ると好評です



新型コロナ禍では高齢者や透析患者を中心に両磐圏域全体から多くの感染者を受け入れて、中心的役割を果たすことが出来たと考えています。

新型コロナ発生以来、令和 6 年夏までの入院患者は通算 760 人以上と、県立病院では中部病院に次ぐ数の感染患者の入院治療を行っています。

千厩病院の役割、目指す病院機能

住民に頼られる東磐井地域の中心となる病院

急性期から亜急性期、回復期までを広くカバーし、地域包括医療ケアを担う

高齢者を中心に救急医療を提供し続ける

地域唯一の透析施設

災害時には必要とされる病院であり続ける

コロナ禍や東日本震災時のように感染症、自然災害発生時に貢献できる病院

